

参考資料

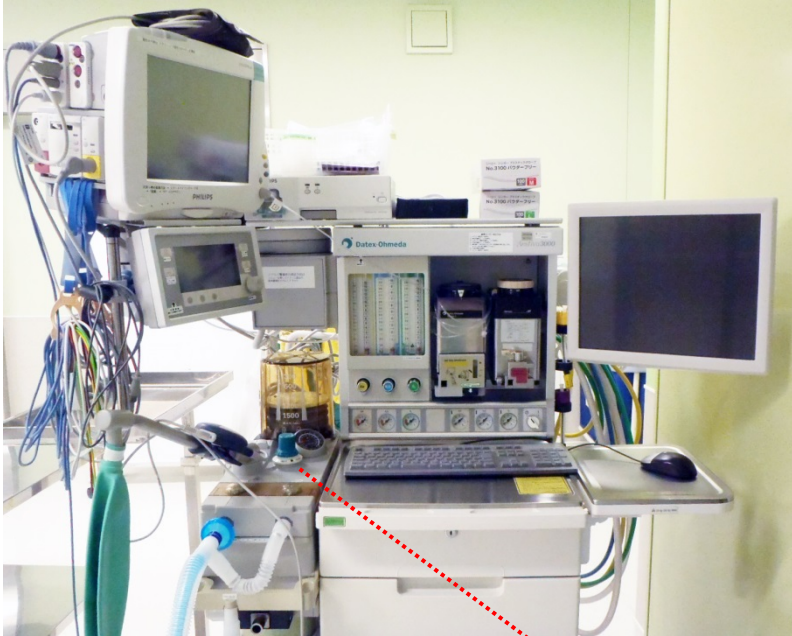
2013年9月10日
13:09麻酔導入時に発生

GEヘルスケア・ジャパン株式会社製 Aestiva3000のAPLバルブのノブ脱落トラブル
(納入当時の発売元はDatex・Ohmeda社)

(APL: adjustable pressure limiting: 設定圧以上に呼吸回路内圧が上昇するのを防ぐ働きをする弁)

【図1】

Aestiva3000全景

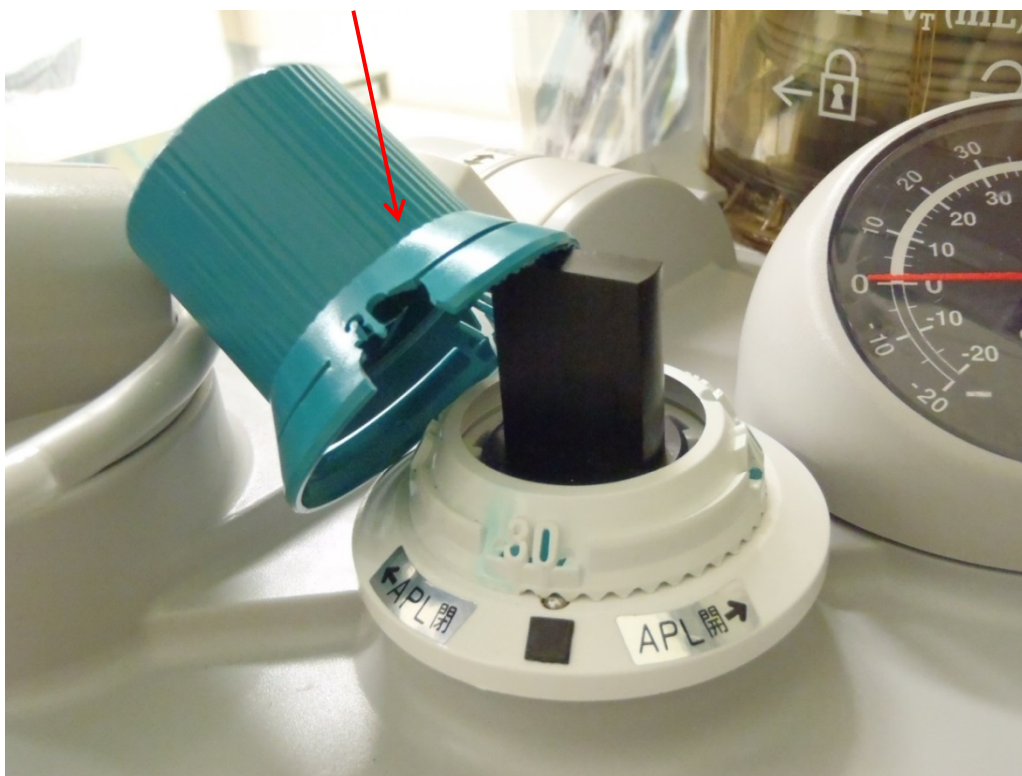


【図2】 APLバルブのノブ

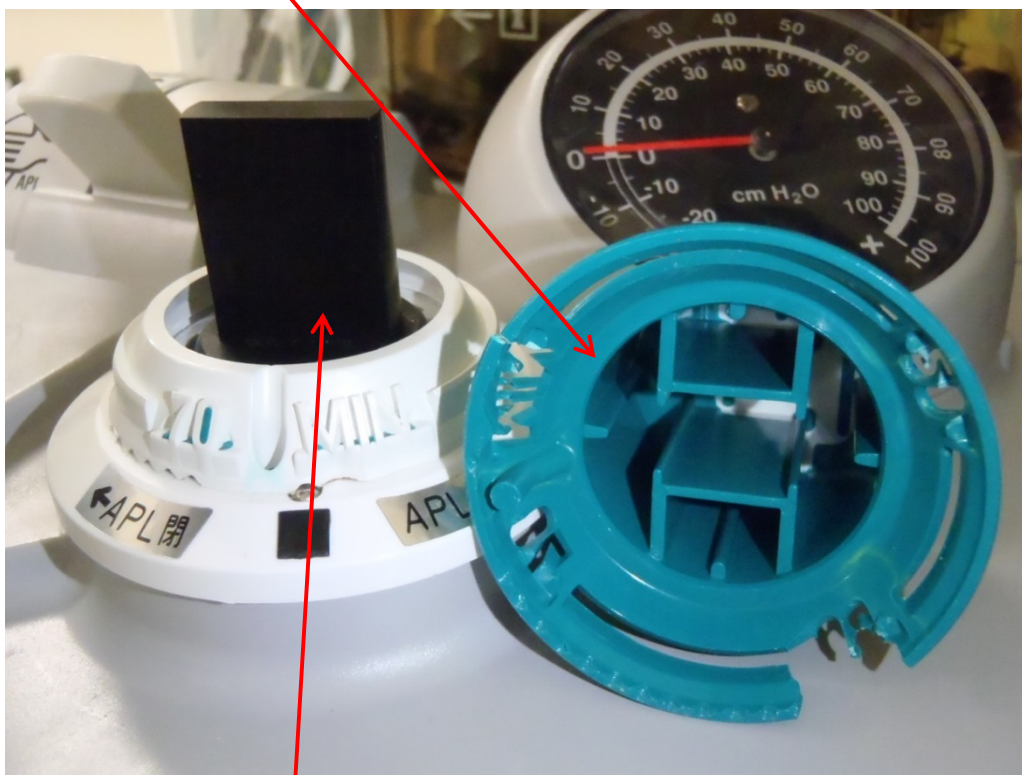


正常な状態

【図3】APLバルブのノブが脱落し床に落ちる



【図4】ノブの裏側



ノブが脱落するとAPLバルブが制御不能となり、全開になってしまうので手で換気することは不可能となる。手動換気で麻酔管理を行う場合は大きなリスクを伴うことになる

【図5】同じ構造のAestiva/5も同じ亀裂が発生している



Aestiva3000よりも新しいAestiva/5においても、導入後2～3年経つとAPLバルブのノブにこのようなひび割れが発生しているものもある。

メーカーと保守契約を結び、毎年定期点検を実施していたが口頭、及び作業報告書で「APLバルブにクラックを確認しました(動作に問題なし)」という報告を受けていたが「動作に異常なし」という説明であったため交換はしていなかった。

当院にあるAestiva3000が2台、Aestiva/5が6台中すべてにおいてAPLバルブのノブのひび割れ破損が認められ、今後も同様の脱落アクシデントが懸念される。

当院保有

Aestiva3000	2台
Aestiva/5	6台

